

# 笛吹市探訪

## 旧石原家住宅再建工事完成

市では、火災でかやぶき屋根が一部焼失した旧石原家住宅の再建工事を進めてきました。工事は3月下旬に完成し、現在では公開されています。今回の笛吹市探訪では、旧石原家住宅について紹介します。

旧石原家住宅は江戸時代に建てられた農家で、約350年前の農家の様子が良く分かる貴重な建物です。



再建された旧石原家住宅

以前は八代町南にありましたが、昭和45年に旧八代町の所有となり、昭和61年に現在地（八代郷土館敷地内）に建て直されました。平成9年に旧八代町の文化財に指定されています。桁行（けたゆき）七間（14・85）、

梁間（はりま）三間半。土間を上げると板敷の上り鼻（あがりはな）があり、一角には、囲炉裏（いろり）があります。上り鼻の奥に畳敷きの仏間、納戸（なんど）、座敷、居所（いどこ）があります。

仏様をまつる仏間と日用品をしまう納戸は、六畳間になっています。また、客を迎え入れる座敷と家族の暮らす場所である居所は、八畳間です。仏間などの畳敷きの4つの部屋の形は、上から見ると「田」の字形になっています。

突上げ屋根は、二階に養蚕（ようさん）のための作業所を造った時に追加したと思われる。

また、旧石原家住宅には、棟持（むなもち）柱（一階から二階まで通る太い柱）は無く、屋根の軒先（のきさき）は低くなっています。

旧石原家住宅のかやぶき屋根から



曳きや工事

火が出たのは、平成17年11月19日のことです。

その後、市では、近隣の方々や市文化財保護審議会などでの話し合いの上で再建方法を決定し、平成18年8月に工事に着手しました。

旧石原家住宅再建に向け、曳き（ひき）や工事・基礎工事・屋根工事・左官（さかん）工事などが行われました。

曳きや工事では、住宅を持ち上げ、下にレールを敷き、東へ約5、北へ約2、50cm動かしました。

また、基礎工事では、住宅を地面から約1、の 높さに持ち上げ、礎石（そせき）（柱の下に置く石）の抜き取り、新たに再建する場所に置き直しました。

さらに、屋根工事では、屋根の垂木（たるぎ）の設置や、屋根にかやぶ

き分の厚みを持たせ、銅板を葺（ふ）く作業などを行いました。

左官工事では、土壁を造る作業などが行われ、また、現場を訪れた八代小学校4年生が、コテで土壁の材料を塗る体験をしました。

再建工事中には「曳きや工事見学会」・「屋根工事見学会」・「土壁塗り体験」なども行われ、多くの見学者が訪れました。

再建工事完成後の3月29日には「昔話を聞く会」が開かれ、冬には「ワラ細工教室」などを開催する予定です。

また、5月6日まで八代郷土館企画展「大正・昭和時代の子ども達」を開催しており、明治から昭和にかけての教科書、おもちゃなどを展示しています。

再建工事が終わった石原家住宅を訪れてみませんか。木造家屋の昔懐かしいたたずまいを感じていただけ



八代小学校児童による土壁塗り体験